

あおば 社協 だより

2023
1月号

「あおば社協だより」は、横浜市青葉区社会福祉協議会（以下、青葉区社協）が実施している事業やイベントのお知らせ、報告等、青葉区内の地域福祉に関する情報を掲載しています。

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会
ホームページ <http://aosha.jp/>

青葉区社協

検索

Instagram やってます！



“食”が支える助け合い “食支援”事業

青葉区社協では、生活困窮等により支援が必要な世帯に対し、企業や団体からの食料品や生活用品の寄付等を活用し、“食支援”事業を行っています。



“食支援”の仕組み

物品または金銭の寄付を通じて、支援を必要とする方へ配分を行います。



このたび令和4年11月に、ひとり暮らし大学生ならびにひとり親世帯を対象に“食支援”を実施しました。食料品ならびに生活用品の提供は、緑法人会様、JA横浜田奈支店様をはじめ、多くの方にご協力いただきました。

取組み① ひとり暮らし大学生を対象とした“食支援” FSA（フードサポートあおば）

FSAは、新型コロナウイルス感染症拡大を影響に“食”に困っているひとり暮らしの大学生を支援しようと令和2年度より始めた取り組みです。これまで、延べ390名（R2年度:207名、R3年度:183名）の大学生に食料品等を支援を実施してきました。

令和4年11月19日～22日に実施したFSAでは、計43名の大学生が食料品等を受け取られました。



利用者の声

毎回たくさんの野菜や日用品をもらえてとても助かっています。ひとりだといつもこんなに買わないのでとても嬉しいです。毎回ありがとうございます。

今回で3回目の参加をさせていただきました。とても感謝しています。ありがとうございます。

たくさんの食料を寄付してくださり、より、部活動、勉強に力を入れていきたいと思いました。顔も知らない私たちに協力してくださり、ありがとうございます。

取組み② ひとり親世帯を対象とした“食支援”

この取り組みは、ひとり親世帯を応援するために令和3年度より開始しました。これまで延べ127世帯（R3）に支援を実施しました。

令和4年11月28日～12月3日に実施したひとり親世帯対象“食支援”では、計19世帯が食料品等を受け取られました。

利用者の声

ひとり親で食べ盛りの子どもの食費が1番かさむので、とくにお米は大変助かっております。このような支援があり、とても助かりますこれからもよろしくお願致します。

いつもありがとうございます。非常に助かっております。食品等の提供による経済支援のみならず、心理的にも助かっています。

青葉区社会福祉協議会
☎ 045-972-8836

“食支援”に関するご相談は随時受け付けております。また、寄付にご協力いただける方は、左記連絡先までご連絡ください。

「障害者週間」 キャンペーン

「障害者週間」とは

毎年12月3日から9日が内閣府が定めた「障害者週間」となっています。この期間に“障害”や障害者に対する理解啓発を深めるための取り組みが全国で行われます。

令和4年度、青葉区社協では、関係機関と連携して、以下の取り組みを行いました。

12月3日 映画上映会 @山内図書館



上映会では、障害者をテーマにした「ぼくはうみがみたくなりました」「逃げ遅れる人々東日本大震災と障害者」の2作品を上映しました。

図書館内にある“りんごの棚”をお借りして“障害”に関するマンガの展示も行い、広く区民に対して、啓発を行いました。



12月6日 バザー @市が尾駅



本会障害者施設連絡会の協力のもと、バザーを開催し、作業所商品を販売しました。

これまで、感染症拡大の影響で3年ぶりの開催となったバザーでしたが、様々な方にご協力いただき、開催することができました。

インタビュー

「えがお・あおば」

青葉区社協では、障害福祉の理解啓発に取り組んでいます。「インタビュー えがお・あおば」では、区内施設・団体で活動している障害のある方々への取材を通じて、普段のご様子や声をご紹介します。

※協力：本会当事者団体部会・障害者施設連絡会

05 青葉ふれあいの会

令和4年11月12日(土)開催、青葉ふれあいの会主催「バリアフリー・コンサート」に出演された太田依里さん(ピアノ演奏)のお母様にお話を伺いました。



※依里さんプロフィール・・・1983年横浜生まれ。仮死状態で生まれ、低酸素脳症の後遺症により脳性麻痺のハンディキャップを負うが、3歳8か月からピアノ、14歳から作曲を始める。現在150曲以上の作品があり、4枚のCDが全国のテレビ、ラジオ局で使われている。ピアノは自分の弾きたい曲を楽しく弾くことをモットーとしている。

1. 始めたきっかけは

ピアノを始めたきっかけは兄の影響です。言葉では表せなかったのですが、様子からピアノを習いたいのが伝わってきた。クラシックが大好きで家ではいつも流れていました。

2. コンサートに参加したきっかけ

2005年から参加しています。大人になってからの方が人前で演奏するのが緊張すると言っています。

3. 日常生活は?

週4日えだ福祉ホームを利用しています。機織りや製菓の仕事をしています。脳性まひの女性はホルモンの影響で体が痛くなることが多いため、最近は歩くことや階段の昇り降りがづらいと言っています。

4. こんな手助けがあったら嬉しいこと

地域の方はみんな優しいです。手助けしてくれる方が多いと感じています。コンサートに出ていると顔を覚えてくれて話しかけてくれます。

5. 作曲活動について

趣味で作曲をしていたものを自費作成して売り出したらある企業の目に留まり、今では、CMやニュースのBGMで使われています。

6. 今後について

グループホームに入りたいですが、入居すると自由にピアノ演奏や先生に習いに行くことができなくなるため、音楽好きで同じような志を持っている方を集めて、そこに音楽が自由にできるグループをつくりたいと思っています。生きづらさを抱えた方にボランティアに来てもらい、社会復帰の一助になればいいなとも思っています。

コンサートの演者と観客は、障害をお持ちの方もそうでない方も音楽を通じて分け隔てなく同じ空間を楽しんでいました。依里さんとお母さんの連弾にはとても元気をもらえました。

次回は、「NPO法人横浜市中途障害者地域活動センター青葉の風」さんです。



ご寄付いただきありがとうございます。

(2022年8月1日～12月31日 寄付者ご芳名)

青葉OBサロン様/有限会社 大真様/田中浩一様/横浜田園ロータリークラブ様/匿名10件 ※順不同

代表メールアドレス変更しました(令和4年11月21日～)
↓メールにてご連絡の際は下記アドレスまで

info-aoba@yokohamashakyo.jp

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会

〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町1169番地22 青葉区福祉保健活動拠点「ふれあい青葉」内

電話 045-972-8836(代表) 045-972-7018(ボランティアセンター) 045-479-9111(移動情報センター)

FAX 045-972-7519

メール info-aoba@yokohamashakyo.jp(代表) URL <http://aosa.jp/>

「あおば社協だより」は、赤い羽根共同募金配分金の一部を活用して発行しています。

